

ふりがな			性別		生年月日		
氏名					年月日		
住所	郵便番号 電話 ()			出生都道府県	発病時在住都道府県		
初診年月日					保険種別		
身体障害者手帳	1.あり(等級____級) 2.なし		介護認定	1.要介護(要介護度____) 2.要支援 3.なし			
生活状況	社会活動(1.就労 2.就学 3.家事労働 4.在宅療養 5.入院 6.入所 7.その他(____)) 日常生活(1.正常 2.やや不自由であるが独力で可能 3.制限があり部分介助 4.全面介助)						
家族歴	1.あり 2.なし 3.不明 ありの場合(続柄)		受診状況 (最近6か月)	1.主に入院 2.入院と通院半々 3.主に通院(____/月) 4.往診あり 5.入通院なし 6.その他()			

発症と経過(具体的に記述)

既往歴・生活歴	初発症状(年月日)	昏睡Ⅱ度以上出現時(年月日)の所見
肝疾患 B型キャリア 肝以外の疾患 輸血歴 薬物服用 飲酒	発熱 食欲不振 全身倦怠 悪心・嘔吐 黄疸 腹部膨満 その他	発熱 黄疸 肝濁音界縮小 腹水 浮腫 頰脈 呼吸促拍 羽ばたき振戦 肝性口臭 痙攣
画像所見	肝組織検査	
肝萎縮 (1.超音波 2.CT 3.その他())	1.生検 2.剖検 3.なし (所見:)	
成因	肝炎ウイルスマーカー	免疫マーカー
1. ウイルス性 1. A型 2. B型(1.急性感染 2.キャリア 3.不明) 3. C型 4. E型 5. その他() 2. 自己免疫性 3. 薬物性() 4. 成因不明 5. 評価不能	IgM-HA 1.陽性 2.陰性 3.不明 HBs抗原 1.陽性 2.陰性 3.不明 IgM-HBc 1.陽性 2.陰性 3.不明 HBc(200×) 1.陽性 2.陰性 3.不明 HBV-DNA 1.陽性 2.陰性 3.不明 HCV抗体 1.陽性 2.陰性 3.不明 HCV-RNA 1.陽性 2.陰性 3.不明 HEV-RNA 1.陽性 2.陰性 3.不明 IgM-HEV 1.陽性 2.陰性 3.不明	抗核抗体 1.陽性 2.陰性 3.不明 抗平滑筋 1.陽性 2.陰性 3.不明 抗LKM1 1.陽性 2.陰性 3.不明 γグロブリン 1.陽性 2.陰性 3.不明 IgG 1.陽性 2.陰性 3.不明 IgE 1.陽性 2.陰性 3.不明 好酸球数 1.陽性 2.陰性 3.不明 D-LST 1.陽性 2.陰性 3.不明

	昏睡出現前	昏睡出現時	昏睡出現5日後	覚醒時	現在
	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
昏睡度					
AST (IU/L)					
ALT (IU/L)					
総ビリルビン (mg/dL)					
直接ビリルビン (mg/dL)					
直接/総ビリルビン比					
プロトロンビン時間 (%)					
ヘパプラスチンテスト (%)					
ATIII (%)					
アルブミン (g/dL)					
アンモニア (μg/dL)					
AFP (ng/mL)					
HGF (ng/mL)					
血小板数 (万/mm ³)					
白血球数 (/mm ³)					

合併症				鑑別除外診断			
①感染症	1. あり	2. なし	3. 不明	①急性肝炎重症型	1. 除外できる	2. 除外できない	
②消化管出血	1. あり	2. なし	3. 不明	②遅発性肝不全	1. 除外できる	2. 除外できない	
③腎不全	1. あり	2. なし	3. 不明	③肝炎以外の急性肝不全	1. 除外できる	2. 除外できない	
④DIC	1. あり	2. なし	3. 不明	④先行する慢性肝疾患	1. 除外できる	2. 除外できない	
⑤心不全	1. あり	2. なし	3. 不明	⑤アルコール性肝炎	1. 除外できる	2. 除外できない	
⑥脳浮腫	1. あり	2. なし	3. 不明				

治療法		使用薬剤等				治療効果				
		1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	ステロイド	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	グルカゴン・インスリン	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	特殊組成アミノ酸	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	血漿交換	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	血液濾過透析	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	プロスタグランジン	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	インターフェロン	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	ラミブジン	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	サイクロスポリン	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	抗凝固療法	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	肝移植	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他
	その他	1. あり	2. なし	3. 今後予定	4. 不明	1. 著効	2. 効果あり	3. 不変	4. 悪化	5. その他

医療上の問題点

医療機関名

医療機関所在地

電話番号 ()

医師の氏名

記載年月日： 年 月 日

肝性脳症の昏睡度分類（犬山分類：1972年）

昏睡度	精神症状	参考事項
I	睡眠・覚醒リズムの逆転。多幸気分、ときに抑うつ状態。だらしなく、気にとめない態度。	retrospectiveにしか判定できない場合も多い
II	指南力（とき・場所）障害、物をとり違える（confusion）。異常行動（例：お金をまく、化粧品をゴミ箱に捨てるなど）。時に傾眠状態（普通の呼びかけで開眼し、会話ができる）。無礼な言動があったりするが、医師の指示には従う態度をみせる。	興奮状態がない 尿、便失禁がない 羽ばたき振戦あり
III	しばしば興奮状態、せん妄状態を伴い、反抗的態度をみせる。嗜眠状態（ほとんど眠っている）。外的刺激で開眼しうるが、医師の指示には従わない、又は従えない（簡単な命令には応じる）。	羽ばたき振戦あり 指南力障害は高度
IV	昏睡（完全な意識の消失）。痛み刺激に反応する	刺激に対して、払いのける動作、顔をしかめる
V	深昏睡、痛み刺激に反応しない	

事務処理欄（ここには記入しないでください。）

受給者番号								審査	入力
-------	--	--	--	--	--	--	--	----	----

【難治性の肝炎のうち劇症肝炎】

1 主要項目

- (1) 劇症肝炎とは、肝炎のうち初発症状出現後8週間以内に高度の肝機能異常に基づいて昏睡Ⅱ度以上の肝性脳症をきたし、プロトロンビン時間が40%以下を示すものとする。
- (2) 肝性脳症の昏睡度分類は犬山分類（1972年）に基づく。（表1）

2 参考所見

- (1) 症状出現後10日以内に脳症が発現する急性型と、11日以降に発現する亜急性型がある。
- (2) 成因分類は「難治性の肝疾患に関する研究班」の指針（2002年）に基づく。（表2）

表1：肝性脳症の昏睡度分類

昏睡度	精神症状	参考事項
I	睡眠・覚醒リズムの逆転 多幸気分、ときに抑うつ状態 だらしなく、気にとめない態度	retrospective にしか判定 できない場合も多い
II	指南力（とき・場所）をとり違える（confusion） 異常行動（例：お金をまく、化粧品をゴミ箱に捨てるなど） ときに傾眠状態（普通の呼びかけで開眼し、会話ができる） 牟礼な言動があったりするが、医師の指示には従う態度をみせる	興奮状態がない 尿、便失禁がない 羽ばたき振戦あり
III	しばしば興奮状態、せん盲状態を伴い、反抗的態度をみせる 嗜眠状態（ほとんど眠っている） 外的刺激で開眼しうるが、医師の指示には従わない、又は従えない （簡単な命令には応じる）	羽ばたき振戦あり 指南力障害は高度
IV	昏睡（完全な意識の消失） 痛み刺激に反応する	刺激に対して、払いのける 動作、顔をしかめる
V	深昏睡 痛み刺激に反応しない	

表 2：劇症肝炎の成因分類

I. ウイルス型

1) A 型 IgM-HA 抗体陽性

2) B 型 HBs 抗原, IgM-HBc 抗体, HBV-DNA の何れかが陽性

・急性感染：肝炎発症前に HBs 抗原陰性が判明している症例

・急性感染(疑)：肝炎発症前後のウイルス指標は不明であるが, IgM-HBc 抗体が陽性かつ HBc 抗体が低力価

(血清 200 倍希釈での測定が可能な場合は 80%未満)の症例

・キャリア：肝炎発症前から HBs 抗原陽性が判明している症例

・キャリア(疑)：肝炎発症前後のウイルス指標は不明であるが, IgM-HBc 抗体陰性ないし HBc 抗体が高力価

(血清 200 倍希釈での測定が可能な場合は 95%以上)の何れかを満たす症例

・判定不能：B 型で上記の何れをも満たさない症例

3) C 型 肝炎発症前は HCV 抗体陰性で, 経過中に HCV 抗体ないしは HCV-RNA が陽性化した症例
あるいは肝炎発症前の HCV 抗体は測定されていないが, HCV コア抗体が低力価で, HCV-RNA が陽性の症例

4) E 型 HEV-RNA 陽性

5)その他(TTV, EBV など)

II. 自己免疫性

1) 確診 AIH 基準を満たす症例またはステロイドで改善し, 減量, 中止後に再燃した症例

2) 疑診 抗核抗体陽性または IgG 2,000mg/d ・でウイルス性, 薬剤性の否定された症例

III. 薬物性 臨床経過または D-LST より薬物が特定された症例

IV. 成因不明 十分な検査が実施されているが, I ~ III の何れにも属さない症例

V. 分類不能 十分な検査が実施されていない症例